

備えよう!!「火災対策」～初期消火～

空気が乾燥しているこの時期に気を付けたいのは火災です。特に「住宅火災」は、失うものも多いので絶対に起こしたくなるのは皆が思う事です。それでも毎日そこかしこで住宅火災が発生しています。それだけこの時期は火災のリスクが高いと言えるのでしょうか。火災の予防については、住宅の構造や都市ガス、プロパン、オール電化などそれぞれの条件で異なってくるので、今回は住宅火災が起きた際の初期消火についてご紹介したいと思います。

火災発生時は速やかに消火器で初期消火を行います。ただし、初期消火が可能なのは天井に火が回るまでです。もしも天井まで火が回ってしまったら大声を出して周りの人に火災を知らせながら避難しましょう。

住宅火災には、「普通火災」、「油火災」、「電気火災」と種類があります。火災の種類によって適している住宅用消火器も異なるので、使用目的に合った住宅用消火器を選ぶことが重要です。

火災の種類	普通火災	油火災	電気火災
	木材・紙など一般可燃物による火災	灯油・ガソリン、食用油などが燃える火災	電気設備など関電の恐れがある火災
火災の種類を表すラベルと色			
粉末消火器 放射時間：約 10～15 秒	○	○	○
強化液消火器 放射時間：約 30～70 秒	○	○	○
泡消火器 放射時間：約 15～20 秒	○	○	×
二酸化炭素消火器 放射時間：約 14～20 秒	×	○	○

※放射時間は一般的なサイズのものです。サイズやメーカーにより多少異なります。
放射時間を過ぎても消化できない場合は、すみやかに避難しましょう。

一般家庭の場合は、粉末消火器か強化液消火器を備えておくとすべての火災に対応できて便利です。

火災は小さなうちに消火することが大切です。あわてず、適切に初期消火を行うことができるよう消火器の種類や取り扱い方、放射時間や使用期限などを確認しておきましょう。

〈防災士 萩野 勝也〉